


逃げられない


へんげんばぐるから



いいこと？ヘルン
ベルに私たちの
嘘を見破られた以上、
今後、ベルとの接触は
一切禁止とします…。



…はい、
フレイヤ様



以降は陰から
ベルを見守って
あげてちょうだい



…はい、フレイヤ様
かしこまりました。

…とある日
ヘルンの部屋にて

…ふう、今日も
ベルに気づかれずに
監視出来たかな…。

?

ちよっと
待ってください。
今開けますから

加千ヤ

加千ヤ

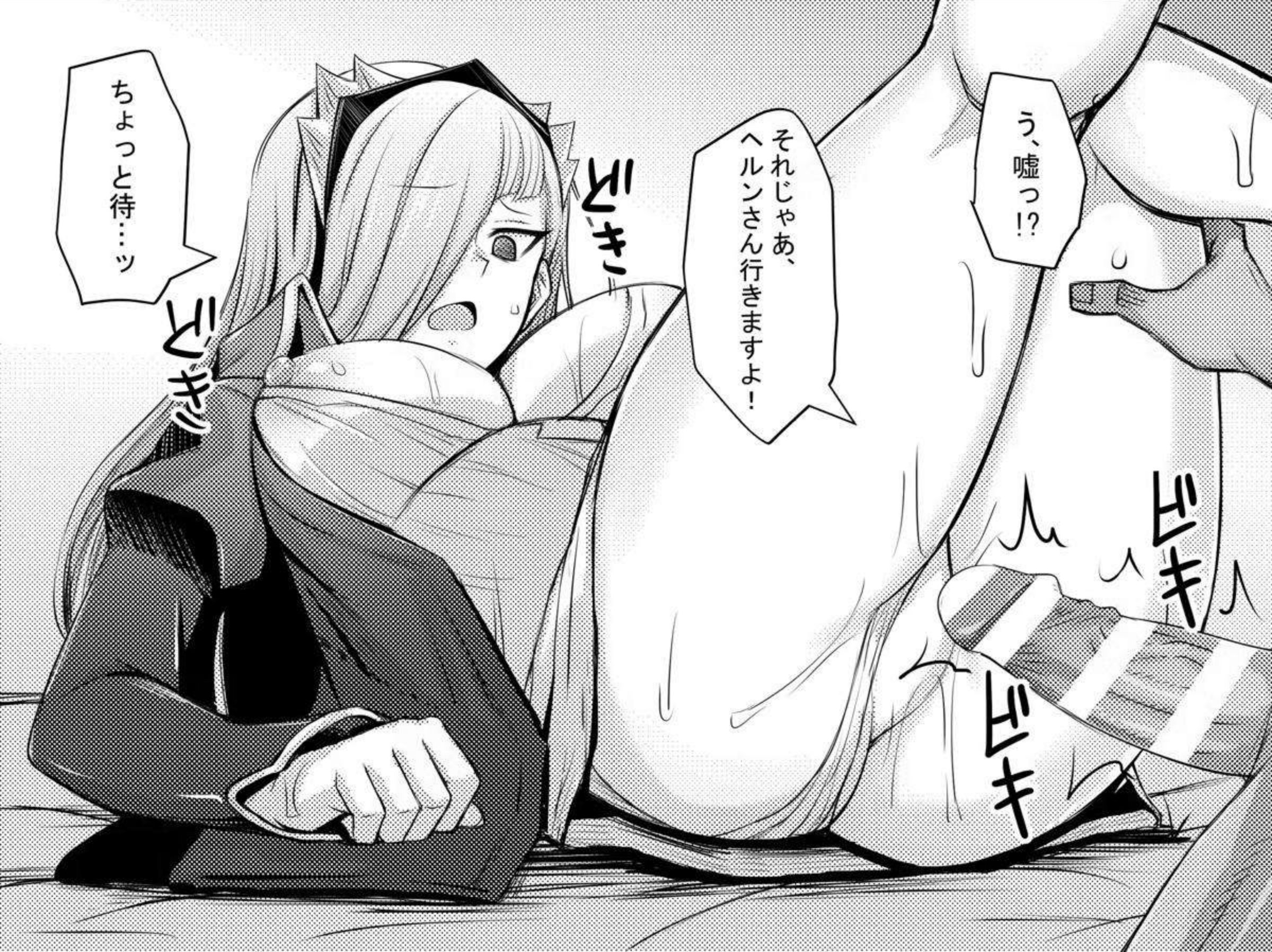
えっ!?

…誰でしょうか。
別に、鍵は掛かって
いない筈ですが…

カキミ

カキミ







くうッ!?
射精るうッ

クウッ!
クウッ!
クウッ!
クウッ!
クウッ!
クウッ!
クウッ!
クウッ!

ハッ!
ハッ!
ハッ!

ヒッ!
ヒッ!
ヒッ!

クウッ!
クウッ!
クウッ!

ヒッ!
ヒッ!
ヒッ!

クウッ!
クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!

クウッ!
クウッ!



はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

……ふう、
気持ち良かったあ

ヘルンさんの膣内
気持ち良くて滅茶苦茶
射精ちやいました。

かっ

かっ

…これ以上、ベルに
関わるべきじゃない。
そう思った私は――

ひよい

その日を境に、
ベルから逃げるように
離れて暮らし始めた。

……けれど。
どこで過ごしていても、
ベルは必ず私を
見つけ出し。

そして――
満足するまで、
私を犯しつくす。

どれだけ周りに
人がいたとしても
ベルが行為に及ぶと

世界から
私の存在だけが
切り離されたみたい
誰一人、気づかなかった。

目の前にいるのに、
助けを呼んでも、届かず
……誰も見ない。

……だから私は、
抗うこともできず、
ただこの状況を
受け入れるしかなかった。

びく びく

びく びく

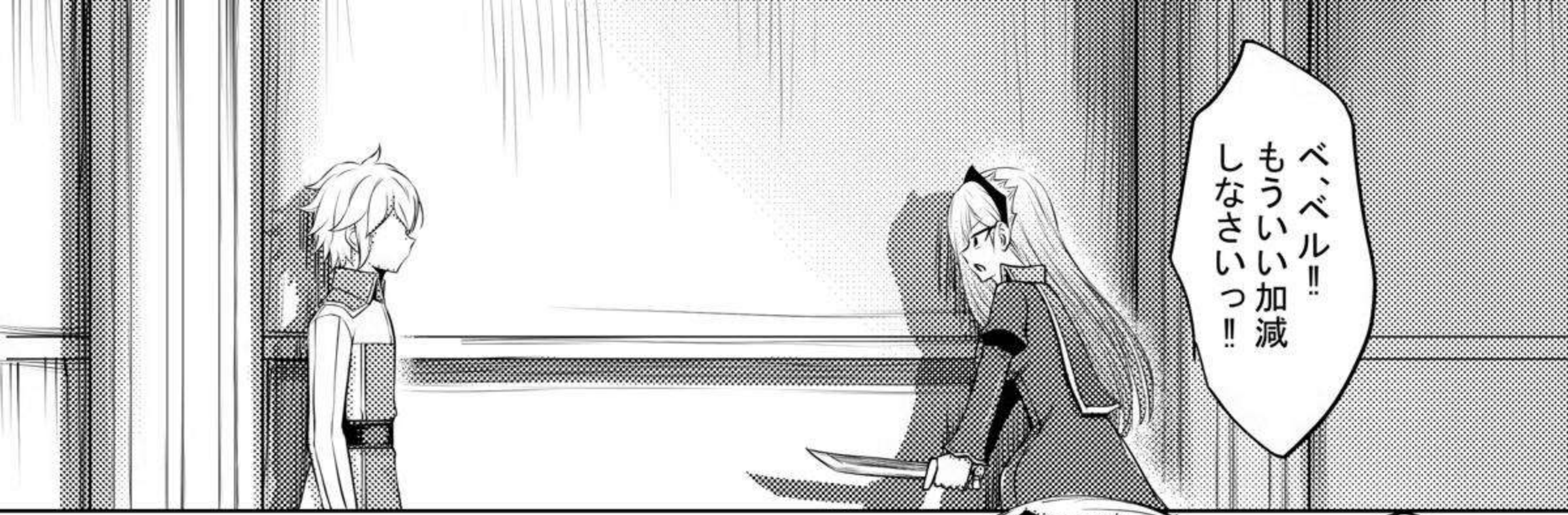
びく びく

あゝ
びく びく

おおい
びく びく

おおい
びく びく

びく びく



べべべべ!!
もういい加減
しなさいっ!!



これ以上、
お前に抱かれる
くらいなら…

覚悟しろっ!



ヘルンさん、
ダメですって

くじり!?

そんな風に
抵抗されたら
もっと興奮
しちゃいますよ

ま、待て、ベル
落ち着けッ

これ以上、お前に
犯されたら……
本当に……ッ

シ
キ
キ

ム
ニ
ニ

ス
ー
ー

イ
キ
キ

イ
キ
キ



孕めッ!?



どくんと



おっおっおっ

おっおっおっ

おっおっおっ

おっ

おっ

おっおっおっ

ヘルンさんも楽しんでくれているみたいなのでこのまま朝まで続けましょうか!

数時間後：

：あれ？
もうこんな時間か

それじゃあ、今日は
もうこのあたりで
終わりにしましょうか！

うあっ…

あっ…

ヘルンさんが途中から
素直になってくれて
本当に良かったです。
これからもよろしく
お願いしますね

あう…

どろろ

数か月後…

全くもう…
どれだけ射精せば
満足するんですか♡

言っておきますが…これはあくまで、
あなたの要望がフレイヤ様へと
向かわないようにするためであって
あなたに抱かれていますのは
仕方なくなんですから
勘違いしないでください♡